

# CO<sub>2</sub>削減効果で需要増

セメント、製紙、路盤材メーカー向け

## 廃油と木くずの固形燃料

東亜オイル興業所(千葉県八千代市、碩孝光社長、☎047・485・7189)の製造する油性廃棄物を木くずなどと混練した固形代替燃料BWF(Bio

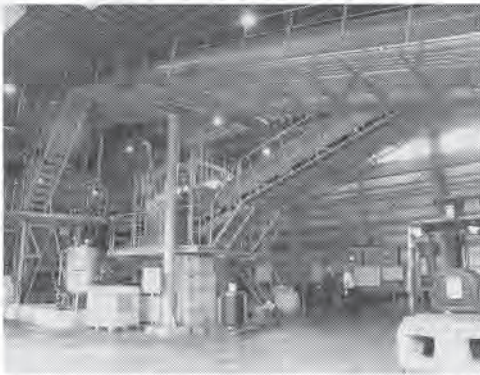
mass Waste Fuel)が、当初計画していたセメントメーカーだけでなく、製紙や路盤材メーカーの工場にも利用が広がっている。BWF

の使用が需要家のCO<sub>2</sub>削減に寄与するため、重油や石炭の代替燃料として注目されている。BWFはリサイクルが難しく焼却処分され

ることが多い廃塗料、廃グリース、廃インキ、廃トナーなどと、木くずやおが粉などのバイオマスを主原料としている。そのため、BWFを代替燃料に使用することで、焼却処分

を削減するとともに、バイオマス成分はカーボンニュートラルになるため、需要家のCO<sub>2</sub>削減に貢献する。また、原油や石炭の価格が高騰していることから、コストの大幅な削減にもつながる。

製造工程は、昨年5月から開始、1日に100立方メートルを製造している。需要拡大に対応するため、精選後の可燃物やダスト類など二次廃棄物の活用も検討をしている。



BWF製造プラント

却処分され

木くずなどに油性廃棄

物を吸収させてホップ

に投入する。木くずと

カロリー調整のための汚泥、コーティング材となるセメントや焼却灰を加え、磁選機を取りつけたコンベヤを通して金属くずを除去、ミキサーで混練する。最後にスクリーンを通して40ミリの角程度に揃えて完成する。

性状はユーザーニーズに合わせて調整可能で、例えば、セメント工場向けには、4000-5000キロ、製紙や路盤材メーカーのボイラ燃料向けには、7000-8000キロ

製造工程は、まず、

まず、

まず、